



南海トラフ地震を想定した医療救護活動等の実動訓練の実施に関する要望

気象庁の地震防災対策強化地域判定会が発表した南海トラフ地震の発生確率は、「30 年以内に 70%～80%」とされ、前回の昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約 80 年が経過していることから切迫性の高い状態であると判断されています。

また、内閣府が発表した南海トラフ地震の被害想定では、東三河南部医療圏で甚大な被害が予想されており、約 70 万人の東三河南部市民の命が危険にさらされることが危惧されます。

東三河南部の各医師会及び各災害拠点病院では、南海トラフ地震により発生する多くの被災者の命と健康を守る役割を十分に認識しているところではありますが、災害時において司令塔となる豊川保健所及び各市が設置する災害医療対策本部等との連携や医療関係者相互の連携など、未解決の多くの課題があると認識しており、東三河南部医療圏の医療関係者が参加する南海トラフ地震を想定した実動訓練の必要性を強く実感しております。

豊川保健所にあつては、南海トラフ地震発生時において、各市、各医師会、各災害拠点病院が円滑な連携を行うための災害医療における司令塔の役割を期待されていると考えており、是非とも、今年度において、豊川保健所が中心となって、各市、各医師会、各災害拠点病院が参加する南海トラフ地震を想定した実動訓練を計画・実施いただきますようお願いいたします。

令和 6 年 8 月 8 日

愛知県豊川保健所長様

豊橋市医師会長	福井 一裕
豊川市医師会長	後藤 学
蒲郡市医師会長	近藤 耕次
豊橋市民病院長	浦野 文博
豊橋医療センター院長	山下 克也
豊川市民病院長	佐野 仁
蒲郡市民病院長	中村 誠
渥美病院長	吉田 昌弘

